施工のポイント

作業取扱い上の注意

●移送中における傷、へこみ、雨漏れ等に注意し、保管は直射日光や多段積みを避けてください。タテ積み保管時には倒れない工夫をしてください。
●S・SXG・アンダーレイシートは裏面にガラス基材を使用しています。カッターの切り口や破れ口にガラス繊維が露出する場合がありますので、直接皮膚に触れないようにご注意ください。万一、眼に刺激を感じた場合や身体に異常が感じられましたら決してこすらず流水で洗い流し、医師の診察を受けてください。
●接着剤での作業の際、接着剤の缶に表示してある労働安全衛生法による注意点をよく読んでください。
●施工終了後、残材・切り屑を始末し、床面を清掃してから引き渡してください。

施工上の注意

下地のチェックは充分に

●仕上がりの良し悪しは下地の状態で決まります。下地は良く乾燥させ、凸凹・不陸・隙間を補修し、ゴミ・塗料等の汚れは完全に除去してください。伸縮の恐れが有る下地への施工は十分にご注意ください。
●湿気のある下地や表面強度のない下地は接着力の低下の元となる為ご注意ください。

下地に合った接着剤

●下地の種類・乾燥状態・床材の使用条件などを考慮し、適切な接着剤を選定してください。

必要な長さにカット

●柄合せを必要とする施工には、要尺検出の際、柄マッチ分（商品頁に記載）と余尺（約5〜10cm）をプラスした材料を準備してください。

仮敷き

●冬場は充分に室温を上げ（20℃前後）、巻癖が取れるまで養生してください。トーチランプ等で部分的に暖めるのは避けてください。変色や反りの原因となります。

壁際等の材料カット

●S・SXGタイプ以外の製品は、壁際・柱回り等は、きつく押し込まない様にカットしてください。当て切りやトリマーなどを使わずに幅定規等を用いて切り込んでください。

柄合わせを美しく処理

●柄マッチがある商品は1枚目と2枚目の柄をピッタリ合わせて、カッターを垂直に立てて2枚を一度に重ね切りしてください。

圧着を充分に

●接着施工後、圧着ローラーや布を巻いた角材で中心から外に向けて中の空気を抜く様に圧着し、空気溜まりやガスを取ってください。特に壁際や継ぎ目は丁寧に行ってください。

継ぎ目処理

●**シーム処理**
適切なシーム液でシーム処理をしてください。
●**溶接処理**
ジョイント部分をU字型に溝を切り、専用溶接棒を溶接機で溶着後、余盛り部分をスパトラナイフ等でカットしてください。（注：S・SXG・アンダーレイシートは溶接出来ません）

端末処理

●開放廊下等の耐水工法での端部の処理はSGスーパーシールで止水してください。

■ 接着剤の用途及び作業性

種類・品名	材料	下地	工法	材料標準塗布量	貼付可能時間	オープンタイム	施工時の条件
合成ゴム系ラテックス形	S・SXG	良く乾燥したモルタル床・木質床	一般工法	300g/m²	20〜30分	10〜15分	5℃以下では施工できない。
アクリル樹脂系エマルジョン形	シンコールフロア全般	良く乾燥したモルタル床・木質床	一般工法	300g/m²	30分	10〜15分	5℃以下では施工できない。
エポキシ樹脂系溶剤形（二液型）	シンコールフロア全般	モルタル床・木質床・鉄板下地	耐水工法	350g/m²	60分	10〜20分	5℃以下では硬化が遅れる。
ウレタン樹脂系溶剤形	シンコールフロア全般	モルタル床・木質床・鉄板下地・プラスチック下地	耐水工法	360g/m²	40〜60分	15〜25分	5℃以下では硬化が遅れる。
酢酸ビニル樹脂系溶剤形	巾木	良く乾燥したモルタル・木質	立上がり部	350g/m²	30分	10〜20分	ー

※オープンタイムは気候（温度・湿度）、下地、使用床材によって変化します。
※アンダーレイシートについては69頁をご参照ください。

■ 副資材適応床材一覧

種類 / 品名 / 床材	継ぎ目処理剤	溶接仕上	継ぎ目・端末処理
	シームシーラー	溶接棒	SGスーパーシール
セラピア フィット		○	
セラピア		○	
セラピア 4.5		○	
デコレア		○	
デコレア フリー		○	
エブリア ウッド		○	
エブリア		○	
SFW		○	
SFP		○	
SFM		○	
リフレシア		○	
S	○		
SXG	○		
耐薬フロア		○	
帯電防止フロア		○	
BKシート		○	○

ご使用上の注意

●水、油類を床面にこぼした時は、滑りやすくなる為すぐに拭き取ってください。
●漂白剤、毛染液などの化学薬品を床にこぼしたときは、すぐに拭き取ってください。
床材の変色、変質をきたす可能性があります。
●重量物や尖った脚の物には、ゴム製品以外の保護具を付けてください。
引きずると傷を付けるおそれがある為移動の際にはご注意ください。
●軟質塩ビ製品の為、タバコの火等で焦げ跡等が付きます。ご注意ください。

汚染についての注意

ゴム汚染について

●ある種のゴム製品は、長尺塩ビシートのような軟質塩ビ製品に長時間接していると、ゴム中の成分により床材を暗褐色に変色させる可能性がある為、ゴム製品とは直接接触させないでください。この汚染はゴム製品の使用をやめた後、時間を経て出る時がある為、予防として家具の脚キャップ・机や椅子等のゴムキャップ・キャスター等はゴム製品以外の保護具（アルミ製、ポリエステル製等）を使用し、直接床材と接触しない様にしてください。また、自動車、自転車のタイヤ等も変色の原因となる為、床材上に放置しないでください。やむをえず置く場合には、床材との間に保護具を入れ直接の接触は避けてください。

下地からの汚染について

●下地に塗布された防腐剤、防蟻剤または内装用塗料で床材が汚染・着色する可能性がある為、油性の場合はシンナーで、水性の場合は水で拭き取り、保護シート等での処置後施工してください。特に新築・改築時や、白蟻退治等の工事の際には、工事業者に長尺塩ビシートを使用する事を説明し注意をうながしてください。

その他汚染について

●染料系オイルステインなどで着色された家具類は、直接接触すると長尺塩ビシートを変色させる可能性があります。床材との間に保護具を入れてください。

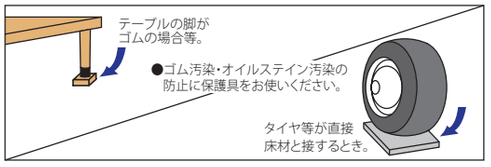
●粘着テープ（ガムテープ・布テープ等）は、ゴム汚染と同様の汚染が生じることがある為、アクリル系粘着剤のテープをご使用ください。

●一部の洗濯洗剤に含まれる蛍光塗料（蛍光増白剤／入浴剤等）についても変色する可能性があります。（床に付着した場合、速やかに拭き取ってください。）

●汚染物質を含んだスリッパ、バスマット、トイレマット等と接触をすると汚染されることがありますので使用を控えてください。

●化粧品（毛染液・マニキュア）に含まれる汚染物質が床に付着すると変色する可能性がある為、付着した場合は速やかに拭き取ってください。

●淡色の床材をトイレで長年ご使用いただいた場合、足跡が残る場合があります。



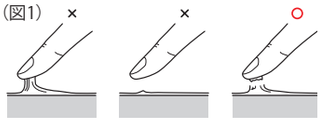
床暖房について

床暖房の施工について

細心の注意と技術が求められる床暖房の施工ステップと注意

床暖房上への施工では、通常の施工に比べて著しく工数と技術を要します。ここでは、現場においてトラブルを最小限に抑える施工方法を紹介いたします。但し、施工下地の状況や施工時の周辺環境等により、様々な解決しきれない問題点があることを理解する必要がありますので、施工店は勿論、元請業者等とも事前に打合せを行い、あらかじめ了承を得てから作業を進めます。

（図1）



	埋設方式の場合	パネル方式の場合
適用床材	セラピア フィット・セラピア・セラピア 4.5・デコレア・デコレア フリー・エブリア ウッド・エブリア SFW・SFP・SFM・リフレシア・S・SXG・耐薬フロア・帯電防止フロア・BKシート	
下地の確認と調整	コンクリート打設は、1発仕上げにし、打ち継ぎは避けます。打ち継ぎはクラックの原因になります。打設後、3～4日の内に約5m間隔で深さ5～10mm、巾4～5mmの誘発目地切りを行うことをお勧めします。床暖房の温度を使用温度+5℃で運転し、昼ON、夜OFFを繰り返し、下地の含水率を8%程度まで乾燥させることが理想です。目地切りした箇所の隙間にはエポキシ樹脂、または、樹脂モルタルを注入し、補修します。 室内温度が20℃以上の場合には、一般的に通電はしないで施工します。20℃以下の場合には通電を施工2日前から行い、床仕上げ材は24時間通電した状態で仮敷きします。施工は使用温度（一般的には30℃前後）+5℃で通電したまま施工します。通電した施工の場合、接着剤が硬化するまでの24～48時間は通電したまま養生します。溶接は通電を切ってから最低24時間以上たって、温度が下がり、充分接着した事を確認してから常温で行ってください。 部分床暖房の場合、床暖房部と非床暖房部の床暖房使用時の温度差が15℃以上になる場合には、15℃以下にしてください。 コンクリート下地が粉ふきやザラメ下地の場合には、プライマー等を使って下地処理をします。下地のひび割れ部分の補修にはテーピング工法というのがあります。ひび割れ部分にテープを貼ることによって、その影響を緩和し、ミミズ腫れを防ぐことが出来ます。すべてのひび割れに対して、使用温度に通電した状態でポリエステル粘着テープかアルミ蒸着ポリエステルテープを貼ります。テーピングの出来不出来がそのまま床仕上げ材の表面に現れますので丁寧に行ってください。テープはw=30mm～50mm、t=0.1mm以下のなるべく薄いものを使用してください。	メーカーによっては直接パネルに施工できるものもありますが、最低5.5mm～12.5mmのコンパネを捨て張りすることをお勧めします。その場合、パネルの釘打ち可能な場所に、必ずスクリュー釘で張り込みます。 直接施工の場合は、下地に吸水性が無い為オープンタイムを充分に取り、張り付け後の圧着を念入りにすることを注意してください。 捨て張りの場合、1mm以下の段差はサンダーがけをし平滑にします。ジョイント部に隙間がある場合には、エポキシ系のパテで補修してください。パテが乾くまで通電し、完全に乾燥してから施工してください。 コンパネ張りをしない場合には、パネルの目地部をポリエステル粘着テープかアルミ蒸着ポリエステルテープでテーピングしてください。
施工方法について	施工方法には、大別して2つの工法があります。 ●全面強接着工法：施工箇所全面にエポキシ樹脂系溶剤形（二液型）、またはウレタン樹脂系溶剤形を使用して施工。長所は、耐久性に優れていて、重歩行や移動荷重が加わる場所に適していますが、反面、下地の影響を受けやすく、クラックによる膨れ（ミミズ腫れ）が出やすいので、クラックの多い下地や乾燥が不十分な場合には施工後膨れが出やすいことが短所です。 ●額縁張り工法：施工する周囲だけをエポキシ樹脂系溶剤形（二液型）、またはウレタン樹脂系溶剤形のような強接着剤を巾30cm程度に塗り、中をアクリル樹脂系エマルジョン形による弱接着剤で施工。 長尺シートを床暖房の下地に施工する現場は、車イス、ワゴン、キャスター、台車、移動ベット等による移動荷重がかかる場所や重歩行エリアが多いので、全面強接着工法を推奨します。しかしながら、近年は養生期間が取れない等の現場環境が原因で、額縁張り工法の要望が増えてきているのも事実で、物件によっては額縁張り工法を推奨しないメーカーの商品を採用しない例も出てきています。但し、あくまでも額縁張り工法については、どうしても全面強接着工法が厳しい場合の対策と考えます。	
接着剤の選定	●エポキシ樹脂系溶剤形（二液型）　●ウレタン樹脂系溶剤形 上記の接着剤は施工完了までの時間内に活性ガスが発生する為、ガス抜き作業が必要となり密着不良場所の低減に役立ちます。接着剤はオープンタイムを確認し、表面状態を確認しながら作業を進めてください。 ●アクリル樹脂系エマルジョン形 この接着剤は額縁張り工法の際に、中心部分に使用します。床暖房における全面接着工法には適しません。	
注意事項	床暖房を運転して施工する場合は、接着剤のオープンタイムが極端に短くなりますので、指接等を行い適切なタイミングで床張りを行ってください。（上図1参照） 下地とシートの接着強化と空気だまりをなくす為、圧着ローラーやカーペットを巻いたしごき板等で、ジョイント部や端に向かって圧着しながら丁寧に空気を抜きます。空気が入っていると膨れの原因になる為、絶対に空気が入らないように注意してください。穴あけは千枚通しやカッター等で目立たないように行ってください。 ワックスは床暖房を止めて、常温に戻ってから塗布してください。	